

みらい

発行責任者／渡部 英治 ■ 編集責任者／三浦 茂人



桔梗(キキョウ/キク目・キキョウ科)
多年草。英名は「Balloon flower」
漢方では乾燥した根を咳止めや
鎮静、解熱の薬として用いた。
秋の七草の一つ(朝顔)とされ、
古くは万葉集に詠われている。

No.7

主な内容

平成30年

2月議会・6月議会
要旨報告

討議資料

今こそ、県政課題へ果敢にチャレンジ!

秋田県議会建設委員会 副委員長
会派みらい 総務会長

佐藤 正一郎

皆様におかれましては、益々ご清栄のこととお慶び申し上げます。

さて、今年3月に発表された国立社会保障・人口問題研究所の将来人口推計では、2045年の本県人口は約60万人とされました。人口減少は避けては通れない道ではありますが、決して悲観することなく、そうした社会に合わせた秋田を創造しつつ、必要な対策に知恵を絞っていかなければなりません。

一方、防衛省の地上配備型迎撃ミサイルシステム「イージス・アショア」の配備計画で、秋田市の陸上自衛隊新屋演習場を最適候補地としたことが重要な県政課題になっています。イージス・アショアの必要性や市街地に隣接する場所を最適候補地としていることの合理性、地域住民の安全を確保するための対策などを十分に検証し、住民と自治体の理解や協力がないうままに計画が進まないよう、強い姿勢で臨みます。

これから県政課題の解決に向けて努力してまいりますので、皆様には引き続きご指導ご鞭撻を賜りますよう、よろしくお願いたします。

これから県政課題の解決に向けて努力してまいりますので、皆様には引き続きご指導ご鞭撻を賜りますよう、よろしくお願いたします。

地上配備型迎撃ミサイルシステム「イージス・アショア」とは

イージス・アショアはイージス艦に配備されている迎撃ミサイルを地上型にしたシステムで、レーダーとデッキハウス、ミサイルを発射する垂直発射装置(ランチャー)3基、弾薬庫、隊員宿舎と支援棟などで構成される。

防衛省は北朝鮮が我が国を奇襲的に弾道ミサイル攻撃できる能力を開発・保有しているとして、秋田県と山口県の2カ所に配備する計画。米国から導入するため、総事業費(施設整備とミサイル等)は2カ所で6,000億円を超え、完成までには6年が必要。

現在、運用されているのはルーマニア(欧州)だけで、2018年にはポーランドに配備される。



2月議会

平成30年・第1回定例会
2月14日～3月20日

平成30年度当初予算は、「第3期ふるさと秋田元気創造プラン」の初年度となることから、「秋田の未来につながるふるさと定着回帰戦略」など、プランに掲げた6つの重点戦略に基づく施策・事業を中心に計上されました。

当初予算の主な内容

平成30年度 一般会計 当初予算

5,802億6,000万円

1 秋田の未来につながるふるさと定着回帰戦略

新 男女イキイキ働きやすい職場づくり推進事業

…………… 2,362万円

女性の活躍推進とワーク・ライフ・バランスの実現に向けて、経済団体等との連携により女性活躍や仕事と育児・家庭の両立支援に取り組む企業を支援する。

2 社会の変革へ果敢に挑む産業振興戦略

新 小規模企業者元気づくり事業 …………… 3,293万円

経営力向上に意欲のある小規模企業者が、各種専門家の指導及び商工団体からの支援を得ながら行う、販路開拓及び業務効率向上に向けた取組に対して支援する。

3 新時代を勝ち抜く攻めの農林水産戦略

新 新時代を見据えた秋田スギ流通システム構築事業

…………… 1,105万円

県内の素材生産企業と木材加工企業の木材需給のミスマッチを解消するため、ICTを活用した木材クラウドの開発を支援し、立木情報の共有化を図る。

4 秋田の魅力が際立つ人・もの交流拡大戦略

新 八橋陸上競技場整備支援事業 …… 3億 1,705万円

ブラウブリッツ秋田のJ2クラブライセンスの取得に向け、秋田市が行う八橋陸上競技場の改修費用等に対し助成する。

5 誰もが元気で活躍できる

健康寿命・地域共生社会戦略

新 たばこによる健康被害予防推進事業 … 402万円

喫煙率の低減や受動喫煙の機会を減少させる施策等を推進し、たばこを原因とする生活習慣病を予防する。

6 ふるさとの未来を拓く人づくり戦略

新 スクール・サポート・スタッフ配置事業

…………… 3,744万円

教員の負担軽減を図るため、教員をサポートする非常勤職員を配置する。

2月議会 代表質問



渡部 英治 [大仙市仙北郡]

- ◆ 第3期ふるさと秋田元気創造プラン・「高質な田舎」について
- ◆ 知事の政治姿勢について
- ◆ 人口減少対策について
- ◆ 秋田の魅力アップについて
- ◆ スタジアム整備について
- ◆ 農業政策について

2月議会 総括審査



三浦 英一 [由利本荘市]

- ◆ 人口減少対策について
- ・あきた未来創造部の取組の成果について
- ・あきた未来創造部の今後の取組と課題について

2月議会 一般質問



土谷 勝悦 [横手市]

- ◆ ツキノワグマの被害対策について
- ◆ 秋田県の自然環境について



佐藤 正一郎 [湯沢市雄勝郡]

- ◆ 第3期ふるさと秋田元気創造プランについて
- ◆ 新たな行財政改革大綱について
- ◆ 豪雪対策について
- ◆ スタジアム整備について



三浦 茂人 [秋田市]

- ◆ 新スタジアムの整備について
- ◆ 県・市連携文化施設について
- ◆ あきた発酵ツーリズムと人材育成について
- ◆ CLT関連事業について



吉方 清彦 [能代市山本郡]

- ◆ 能代産業廃棄物処理センター問題について
- ◆ 学校部活動のあり方について

6月議会

平成30年・第1回定例会
6月21日～7月13日

今回の補正予算は、5月18日からの大雨による災害復旧対策事業のほか、秋田の元気創造を加速するための事業や公共事業等について計上しました。

平成30年度 一般会計 補正予算

167億4,839万円

補正後の規模 5,970億 839万円

6月補正予算の主な内容

- **災害り災者見舞金** **1,300万円**
災害により被害を受けた世帯に対して見舞金を支給する。
- **災害査定調査事業** **3億1,800万円**
被害を受けた道路や河川等の公共土木施設について、災害査定申請に必要な調査等を行う。
- **災害復旧対策事業** **57億1,456万円**
被害を受けた土木施設、農業用施設等の復旧を行う。
- **新 建設 ICT 研修拠点活用人材確保・育成事業** **774万円**
建設産業を担う人材確保・育成するため、県内の建設 ICT 研修拠点を活用した研修等を実行する。
- **秋田犬の里 魅力アップ促進事業** **1,697万円**
秋田内陸線の車両を秋田犬をイメージした内装に改修し、鉄道の魅力向上とインバウンドを含む観光利用の促進を図る。

- **新 地域における IoT の学び推進事業** **718万円**
県内 ICT 企業や行政等の産学官が連携し、高校生等を対象とした「地域 ICT クラブ」の創設により、未来の ICT 人材の育成及びクラブの自立的な活動を目指すための実証事業を行う。
- **新 患者のための薬局ビジョン推進事業** **515万円**
地域包括ケアシステムの一翼を担うかかりつけ薬局の普及を図るため、薬剤師の能力向上に向けた研修等を実施する。
- **新 コミュニティ生活圏形成事業** **278万円**
人口減少が進行する地域での持続可能な暮らしを守る取組を展開するため、新たなコミュニティ生活圏の形成に向けた県民意識の醸成を図る。

6月議会 一般質問



三浦 英一 [由利本荘市]

- ◆ イージス・アショアについて
- ◆ 風力発電について
- ◆ 子どもの安全対策について
- ◆ 鳥海ダム建設の関連道路整備について



三浦 茂人 [秋田市]

- ◆ 人口問題について
- ◆ 新スタジアム整備構想について
- ◆ 水素社会実現に向けた取組について
- ◆ 「北海道・北東北の縄文遺跡群」の世界遺産登録について
- ◆ イージス・アショアについて

6月議会 総括審査



佐藤 正一郎 [湯沢市雄勝郡]

- ◆ イージス・アショアについて
- ◆ 県・市連携文化施設について
- ◆ スタジアム整備について

予算 特別委員会

副委員長 **東海林 洋**

副委員長として運営に携わりました

一般会計および特別会計の予算について審査

県外調査

〈群馬県・栃木県 / 平成30年5月7日～9日〉

- JA 甘楽富岡 下仁田支所
地域特産野菜の栽培について
(下仁田ネギやコンニャク等)
- 群馬県庁 農政部
群馬県における農業振興政策について
- 上都賀農業振興事務所
栃木県の地域農業の振興政策調査
- JA はが野 高機能物流センター
施設栽培によるイチゴ産地について
- 吉原一成さん(鉢物などの園芸農家)の農場
「とちぎオープンファーム」視察



JA はが野 高機能物流センター

佐藤正一郎の 県議会レポート

2月議会では「第3期ふるさと秋田元気創造プラン」や「豪雪対策」などについて一般質問。6月議会では予算特別委員会総括審査で「エイジス・アショア」や「県・市連携文化施設」の課題について知事と質疑をしました。

「元気な秋田」を創造しよう!!
<http://www.sho-ichiro.net/>

さとう正一郎ホームページ
さとう正一郎 検索

エイジス・アショアの配備

質問の要旨

防衛省の戦略企画課長は「調査では新屋に配備が可能という結果が出る可能性が高い」と明言している。防衛大臣も来県して知事や議長に理解を求めたが、その前日には土質調査と測量調査、基本構想等策定業務の入札公告が行われた。すでに既成事実が積み上げられている。「(防衛省は) 配備ありきではない」と強調するが、対応はなし崩し的である。知事は一連の動きをどのように思っているか。

エイジス・アショアは常設の「ミサイル基地」だ。ルーマニアの場合は使わなくなった飛行場にあり、市街地から3km以上離れており、人口密度も低い地域だ。新屋演習場は約1kmと場所が狭く、周囲に緩衝地帯がなく住宅地に接している。これはミサイル基地にはふさわしくない決定的な理由となる。万が一有事の場合はもっ

とも狙われる可能性があり、国民を守るための装備が国民を不安に陥れるようでは本末転倒ではないか。

なぜ知事は、はっきりと「新屋演習場にエイジス・アショアを配備するのは無理である」と言わないのか。国が可及的速やかに配備したいのであれば、別の適地を可及的速やかに探したほうが早期の配備につながる。現在整備中のポーランドでは市民生活や経済活動に影響がでているとの報道もあった。一日も早く、知事は意思表示をするべきだと思う。

国会議員などからは「丁寧な説明をして不安を払拭するように求める」声が多くある。しかし、いくら丁寧に説明したところで、新屋演習場と近隣の住宅地との距離は変わらない。防衛省が言う最適地とは、「北日本にある自衛隊の演習場や駐屯地で日本海側の場所」だから選んだとしか思われぬ。知事には毅然とした態度を示してほしい。

建設委員会 県内調査

県内各地の豪雨災害現場や事業箇所を訪問

(平成30年7月・8月)



成瀬ダム〈東成瀬村〉



横堀道路〈湯沢市〉



安良町バイパス〈羽後町〉